

北里大学
同窓会
福井県支部

会報

No. 11
2001.3



目次

支部設立15周年を迎えて	清水賢涼	1
支部活動の継続を	秋田久直	2
叡智(英知)と実践	高田浩	3
平成12年度総会・懇親会		4
支部懇談会に出席して	伊藤善祐	4
大学時代の思い出	持田麻希	5
学生生活 = 部活!?	北川佳孝	6
白金の頃...	佐藤幸子	6
北里大学同窓会の歩み(年表)		7
再び相模原へ	伊藤善祐	8
インターネットホームページ (北里大学相模原キャンパスマップ・写真)		9
北里大生は今 『Sophia kai Ergon』より		10
会計報告		11
福井県支部設立の頃を振り返って		12
編集後記		12



新しい世紀を迎えて

支部設立15周年を迎えて

2001年、新しい世紀を会員の方々には心を新たにお迎えのこととお慶び申し上げます。私たちの福井県支部も昭和63年の設立以来15周年を迎えました。会員の皆様のご協力、ご支援に心から感謝を申し上げます。

ところで、世紀を跨ぐといっても、そういう機会に恵まれたことは幸運ですが、1世紀は100年もあり人生を二度繰り返さなければ出会わないという長いスパンになっています。翻って、日本の暦には和暦と西暦があって、和暦は天皇の生涯を基にしているので、人の一生のうちにはいつの日にか悲しみと新たな出発とに出会えることとなります。年号の改元という儀式によって人心の一新を図ることにもなります。

また、その昔使われていた陰暦や年中行事は、日本の美しい四季を巧みに取り入れて生活

北里大学同窓会
福井県支部会長

清水賢涼

に張りを持たせていました。その行事を行うことによって生活にメリハリが出て、気分も一新されたのですが、もう随分と前から毎日が盆・正月のようになってしまい、けじめがなくなってしまったような気がします。

21世紀を迎え、暦に引っ掛けて来し方を自戒を込めて振り返ってみました。同窓会の支部活動についても、10数年も経つとメリハリの利いた行事がなくなっておもしろくなくなってきたかなと自省しています。しかし、大学を卒業してしまうと、地方にあって大学との接点が薄れがちになってしまいますので、これを防ぐためにも次の世紀までも引き継いでいかなければならないと思っています。

これからも会員の皆様が益々ご発展されますことをご祈念申し上げます。



第38回北里学園・北里祭パンフレット
(2000.11.11-12)

福井県支部への メッセージ

支部活動の継続を

福井県支部の皆様、初めまして。先日、福井県支部総会に、北里大学同窓会を代表して出席させていただきました。清水会長ならびに会員の皆様にお世話になり、紙面をお借りしてお礼申し上げます。

大学同窓会理事となって、支部担当理事に任命され、今までに石川県支部と愛媛県支部総会に各2回、広島県支部と関西支部総会に各1回出席しました。今回の福井県支部で7回目の支部総会出席となりました。北里大学同窓会には全国に21支部ありますが、中には活動が停滞している支部もあると聞き及んでおります。しかし、私の訪れた5つの支部は活発に活動されているところでした。総会の開催、その他のイベント、会報・名簿の発行などが精力的に行われていました。

総会に出席させていただき、共通した支部特有の悩みがみえてきました。それは、地方支部が各都道府県を単位として構成されており、県によっては極めて広い範囲をカバーしなければならないことです。中心と思われる県庁所在地で総会や懇親会を開催しても、県境からですと片道2時間かかる所もあるようです。そうなると夕方からの開催では帰れなくなる会員もあり、自ずから出席者が限られてくるようです。そのために開催場所を県庁所在地から離れて、会員の多い都市で



北里大学同窓会
会報担当常任理事 秋田 久直

開催したり各種イベントを企画したりと、支部を運営される方々のご苦勞が伺えます。支部活動の運営は大変と思いますが、途切れないよう細くても持続した運営をお願いしたいと思います。離れてはいますが、大学同窓会からは会員集会のための会員住所DMの打ち出しや支部企画事業への援助等も予算化されています。

再選された小山田久会長は、地方支部設立を援助する方針を打ち出しています。すべての都道府県に地方支部ができた時点で、北里大学同窓会の運営も大きく変わると予想されます。会費が大学同窓会・支部会費・学部同窓会会費（徴収していない学部もありますが）と、複数徴収されているのを一本化する問題や、会員子弟の北里大学入学優遇処置などにも進展がみられると思います。

北里大学の卒業生は、毎年千数百名ずつ増加しています。しかし、地方出身者が減少し、さらに、地方出身者が帰郷しての就職先を見つけれず関東近郊で就職することも多く、支部に登録される新卒者の会員が減少する傾向がみられます。このような中での支部運営は大変かと思いますが、清水会長を中心に福井県支部がさらなる発展をされることを祈念致しております。



叡智(英知)と実践

新世紀を迎え、福井県支部の皆様お元気ですか？

東京で行われている本学同窓会支部懇談会で貴支部の会報を読む機会があり、内容の豊富さには驚きと、伊藤理事の精力的な行動力の賜と深く感銘を受けています。今回、貴支部会報の原稿依頼があり、文筆能力に欠ける私には大変な難題でした。

さて、今を遡ること30数年前、大学に入学した時、北里柴三郎先生の建学精神である「開拓、報恩、叡智と実践、不撓不屈」の四つの言葉を聞きました。その中でも、特に「叡智(英知)と実践」という言葉を先生方よりお題目のように聞かされていたことが懐かしく思い出されます。

入学当時には、もう叡智の文字は使われず、英知と書いていましたから、そそっかしい人は「英語を知ったら(覚えたら)直ぐ使ってみること」と思ったかもしれません。今日では「世界は一つ」と言われるほどの国際化時代ですからそれでも良いでしょう。事実、北里先生も外国の有名な研究機関への留学や視察等をされています。

しかし、この言葉は「自己の周囲にある数々の問題に目を向け、考え、解決のために行動する」ことらしいのです(北里先生から

北里大学同窓会
富山県支部会長 高田 浩

直に聞いた訳ではないため)。私たちの周り(職場や家庭内など)を見回してみると、幾つもの難問が山積しています。これらの難問に対して、私自身は安直に立ち向かったり、見ない振りをして逃げる姿勢をとってしまうことが、年とともに多くなってきました。この原稿を書きながら、私自身大いに反省をしているところです。皆様方には私のように逃げることはないと思いますが、今一度この北里精神を思い返し、自分の周囲に目を配り、物事(特に難問)から逃げないで真正面からぶつかっていく気構えがあって、初めて「叡智と実践」が生かされるのではないかと思います。

最後に、清水支部長を中心に一致団結し、貴支部の大いなる発展とご活躍を期待します。



向かって右が高田 浩氏、左が小山田伸一氏
(第27回支部懇談会にて、真ん中が伊藤です)

平成12年度 総会・懇親会

平成12年11月17日(金) 福井ワシントンホテル『銀坐』



伊藤善祐
玉田安彦
川端興一郎
江島昌樹
上田修志
宮崎茂夫
敬称略
佐藤幸子
秋田久直
清水賢涼
奥井光子
宮越伸治



支部懇談会に出席して 伊藤善祐

平成12年11月10日(土)午後、『第27回支部懇談会』が白金キャンパスで開催された。小山田久会長をはじめ役員と全国16支部から支部長が出席していた。私は清水会長の代理として、昨年に引き続き出席した。

各支部の活動状況(企画行事)の報告のあと、学部同窓会(支部)と全学支部との連携について討論された。また、会費納入率のアップのために、いかに会員のメリットを高めていくかが話された。

入学生の首都圏集中化が進む中、地方支部の運営にも課題が多いように見受けられた。福井県支部においても同窓会の在り方を考え、同窓生に根付いて未長く続けられるように努力していきたい。



大学時代の思い出

持田 麻希

(平成12年医療衛生学部・臨床検査学専攻卒業)

私が大学を卒業して、早1年が経とうとしています。卒業し就職してからは、早く新しい環境に慣れようと必死で、他の事を考えている余裕もなかったのですが、仕事にも慣れてきた時にこのような機会を与えていただいたので、大学4年間を振り返ってみようと思います。

入学式、知っている人が一人もおらず、全国から来ていることもあり、初めは期待と不安で一杯でした。とりあえず、出身を聞くなどして話すきっかけを作りました。しかし、福井県を知っていた人はほとんどおらず、中には福島県と勘違いしていた人もいて、予想はしていたものの福井県の知名度の低さを実感してしまいました。

2年の時の実習では、毎日レポートの提出があり、あまり思い出したくないのですが、すごく大変だったため忘れられません。レポートの事ですが、提出期限がきつかったのです。実習は午後からなのに、提出は1時限目の講義が始まる前だったからです。何でも、先生方から「講義中にレポートを書いている」という苦情が毎年のようにあったそうで…。きっと、先輩方も苦労していたんですね。

4年の時には研究室に入り、新しい仲間と出会いました。その頃は、朝早くから夜遅くまで



研究室の仲間と一緒に
(最後列右端が私です)

ほぼ一日研究室にこもりっきりでした。しかし、少しも辛いとは思っていませんでした。それというのも、やる時はやり、遊ぶ時は思いっきり遊ぶといった切り替えを、みんなができていたからだと思います。また、分からないことがあってもみんな協力して解決して来ました。

このように大学4年間は、知識や技術を学んだと同時に、良き友人に出会えたことで人間的にも成長できたのではないかと思います。ですから、私は北里大学に行くことができ本当に幸せでした。

平成12年は、福井県出身の医療衛生学部卒業生が3人おられました。今回、学生時代の思い出を寄せていただいた持田さん、北川さんのご活躍をお祈り致します。

学生生活 = 部活!?



北川 佳孝

(平成12年医療衛生学部・診療放射線技術科学専攻卒業)

卒業してから、早一年が経とうとしています。あっといふ間の一年だったため、大学時代を振り返るとい

ことがありませんでした。この機会に思い返してみようと思います。

学生生活は『体育会スキー部』に入り、ほとんど部活中心に回っておりました。スキーもやったことがない僕が、なぜかその部活に参加していました。体育会だから礼儀はうるさいし、合宿は多いし、冬以外でも練習はちゃんとあるし...。何より、お金がすごくかかるのです。そのため毎日のようにバイトの日々で、学校以上にまじめに行っていました。今考えると、よく引退まで続いたな...と、自分でも感心します。

学年が上がるにつれて、自分にかかる責任が大きくなってきて、何度も逃げ出そうとしました。そのたびに、仲間同士励まし合って、より仲良くなっていきました、ちなみに、北里大学

体育会スキー部は薬系大学の小さな連盟に所属していたため、規模もレベルも小さかったのですが、その連盟の大会を目指して頑張っていました。僕たちの学年もその大会での優勝を目標にしていました。「今年は無理かも...」という声も囁かれて、去年までの3年連続総合優勝は僕らで途切れるかと、大きなプレッシャーでした。先生やコーチ・OBの方々のお陰もあって、何とか僕たちも総合優勝というものを手にすることができました。今までになかったほど部員も少なく、あの状況で優勝できたのは、学年関係なく一人ひとりの努力なのだとして感動しました。僕は主将として頑張ってきて良かったです。

こうやって、いつの間にか学生生活も終わってしまいました。でも、あの時の仲間とは、これからもいい友人となると思います。

白金の頃...

佐藤 幸子

(昭和54年衛生科学専門学院卒業)

何だかんだやっているうちに、早くも半世紀近くも生きてしまった(まだまだ50歳ではないが...)。しかも、その半分は臨床検査技師という職に就いてずっと過ごしてきたのだから、進路の選択は正解だったのだろう。

20数年前、医療に興味を持ち港区白金にあった衛生科学専門学院を受験した。その日の記憶という、確か試験会場の廊下の窓から遠くの方に富士山の姿が眺められたこと

で、何もかもが大きくて広い東京に期待でいっぱいだった。

在学中も優秀ではなかったので、あまり良い思い出はないが...。その当時、芸能界御三家の五郎さんの大ファンだった私は、六本木のホテルなどで行われたレコード大賞などの受賞式を授業を抜け出して見に行ってしまったことがある。その頃は講議の出欠をとるのに、名簿が前の方から回ってきて自分で名前

を書くというやり方だったので、友人の筆跡を真似て書くのは得意だった。未だに、友人に年賀状を書く時につい癖が出そうである。

スキーを始めたのもこの頃で、スキー部の人たちに誘われてよく志賀高原や梅池に連れて行ってもらった。初めてボーゲンを習った日に転倒して膝を捻挫したが、滑れるようになった嬉しさのあまり、「大丈夫、大丈夫」と言って2～3日滑り続けた。お陰で膝はポンポンに腫れあがってしまった。

久しぶりに卒業アルバムを開いてみた。寄せ書きに書いた言葉は“初心貫徹”。常に意識

しているつもりだが、あまりにも最近騒がれている医療ミス！基本を忘れてしまった現象ではないだろうか。何でもが機械化されて高度化されるのも医療の進歩ではあるが、アナログの感覚も忘れたくない。



北里大学同窓会の歩み

* 同窓会ホームページより

昭和39年	7月	衛生学部「北衛会」結成	昭和63年	4月	新潟、福岡、熊本の各県支部が発足
昭和40年	1月	薬学部「薬友会」結成	平成2年	3月	「北里大学同窓会奨励金制度」の創設・細則制定
昭和41年	1月	北里大学同窓会規約生る			宮城県支部発足
昭和44年	3月	会報第1号発行		4月	看護学部同窓会結成
昭和45年	3月	畜産学部同窓会「紅緑会」結成	平成3年	1月	「北里大学同窓会奨励基金」の創設
	10月	同窓会規約施行	平成4年	3月	和歌山県支部発足
昭和46年	6月	関西支部発足	平成6年	3月	愛媛県支部発足
	10月	新聞創刊号発行		4月	栃木県支部発足
	11月	山梨県支部発足			衛生学部が改組により、医療衛生学部及び理学部同窓会として発足
昭和47年	3月	『会員名簿』発行			卒業後10年を越えた会員に対し、新会費制度導入
昭和51年	4月	医学部同窓会結成		9月	出張旅費規程制定
	5月	同窓会設立10周年記念植樹	平成7年	9月	北里大学同窓会会員情報管理規程制定
	9月	北陸支部発足		12月	千葉県支部発足
	11月	同窓会創立10周年記念懇親会開催 (於 ホテル・ニュー・ジャパン)	平成8年	9月	北里大学同窓会創立30周年記念事業 宮城地区『森久美子ト・クショ・とコンサト』開催 (於 仙台市民会館大ホール)
昭和53年	12月	会費細則制定		10月	北里大学同窓会創立30周年記念事業 東京地区『美女と野獣』(劇団四季)観劇会開催(於 赤坂ミュ・ジカル劇場) 第15回講演会開催(講師:倉嶋厚氏)
昭和54年	5月	部会細則、支部細則制定		11月	第23回支部懇談会開催(於 広島)
	6月	広島県支部発足			北里大学同窓会創立30周年記念事業 広島地区『常田富士男&京都フィルハ-モニ-夢いっぱいコンサト』開催 (於 広島県民文化センター)
	12月	代議員推薦細則、役員指名細則制定	平成9年	12月	『会員名簿』発行
昭和55年	2月	衛生学部同窓会結成	平成12年	9月	会報第49号発行
	5月	水産学部同窓会「三水会」結成			
		群馬県支部発足			
昭和56年	5月	青森県支部発足			
昭和57年	5月	岡山県支部発足			
昭和57年	12月	就業規定、給与規定の制定			
昭和58年	4月	弔慰規定(内規)制定			
昭和60年	6月	東海支部の3県が独立し、愛知、岐阜、三重の各県支部として発足			
昭和61年	3月	同窓会創立20周年記念演奏会開催 (於 五反田ゆうぽうと)			
昭和61年	5月	北陸支部の3県が独立し、富山、石川、福井の各県支部として発足 山形県支部発足			

再び相模原へ 1999年秋、北里祭を訪ねて

伊藤善祐

(昭和50年衛生学部・衛生技術科卒業)

昨年(1999年)の11月12日(日)、ちょうど一年振りに相模原キャンパスを訪れた。北里祭の最終日だったので、以前からその日を楽しみにしていた。

医療衛生学部の秋田氏に案内していただき、ゆっくりとキャンパスや校舎内を隈無く見て歩くことができた。私が在学していた頃の旧衛生学部校舎は昔のままであったが、学部・学科の再編により、教室や実習室の配置がかなり変わっていた。医療衛生学部もA1～A3号館からなっており、キャンパス内は様々な建物で所狭しといった雰囲気であった。また、元グラウンドには理学部校舎が建てられ、グラウンドは少し離れた場所に移転していた(次ページにホームページからコピーしたキャンパスの写真とマップを掲載させていただいた。昔と比較して、その変わり様に驚かれた方も多いと思う。)

さて、どこの学園祭もその在り方や参加者減少などの課題が多いと言われている。北里祭もそのような波の中で模索しているのであろう。生命科学を標榜する本学にふさわしく、オリジナリティーに富み地域社会に根ざしたものにしようとの工夫が随所に見受けられた。すべてを見て回ることはできなかったが、「体験医療」

「健康チェック」コーナーやチャリティー活動に目がとまった。

今回でこの北里祭も第38回を数えるという。テーマは『北里ってなんだ?』であった。最近、私が勤務している病院に来る実習生と接する際に、“今の学生は何を考えているんだろう?”とすることがある。その反面、“自分の学生時代はどうだったのか?”と自問自答することもある。人間形成は大学生の頃にでき、現在に至っているのではないだろうか。だからこそ、学生時代にいろいろな経験と勉強をしてほしい。

学園祭で成功に向けて長い間頑張ってきた実行委員の諸君は何かを掴んだかも知れない。ただ、例年のごとく運営は文化会・体育会学生が中心となっているようで、多くの一般学生が参加して大学で学んだ知識や育んだ考えを発表する場には成り得ていないようである。自分が所属する組織や社会(大学)の行事などには、まず参加することが大切である。

彼らが社会人となり学生時代を振り返る時、「北里ってなんだったんだ?」とならないように、今を精一杯大切にして“生きる力”を育ててほしいと願っている。



インターネット ホームページ

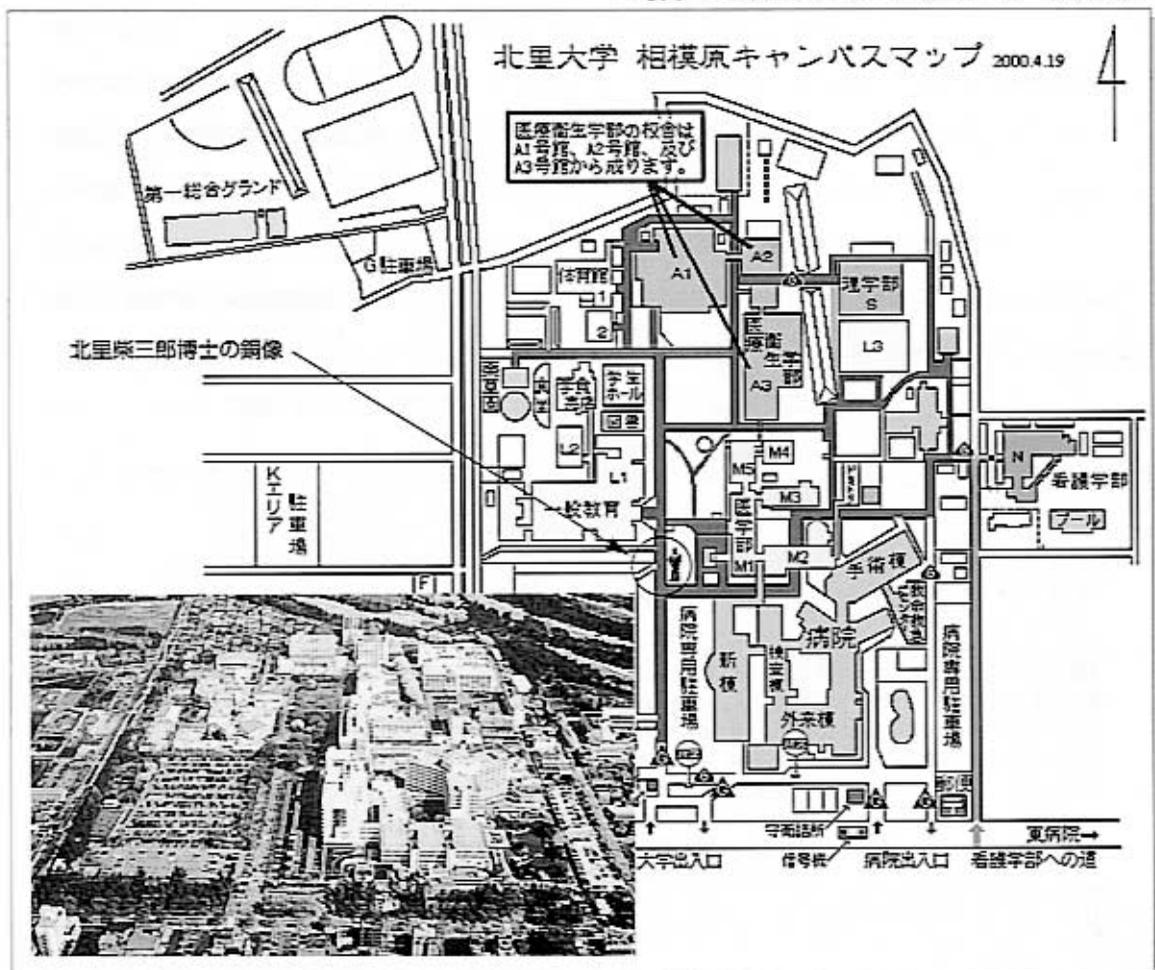


URL:<http://www.kitasato-u.ac.jp>



北里大学では、情報化推進事業の一環としてホームページを開設し公開しています。同窓会のページが少しリニューアルされました。今後は、各支部の活動やさまざまなトピックスの紹介を増やしてほしいと思っています。

*写真・マップは、ホームページからコピーしました。





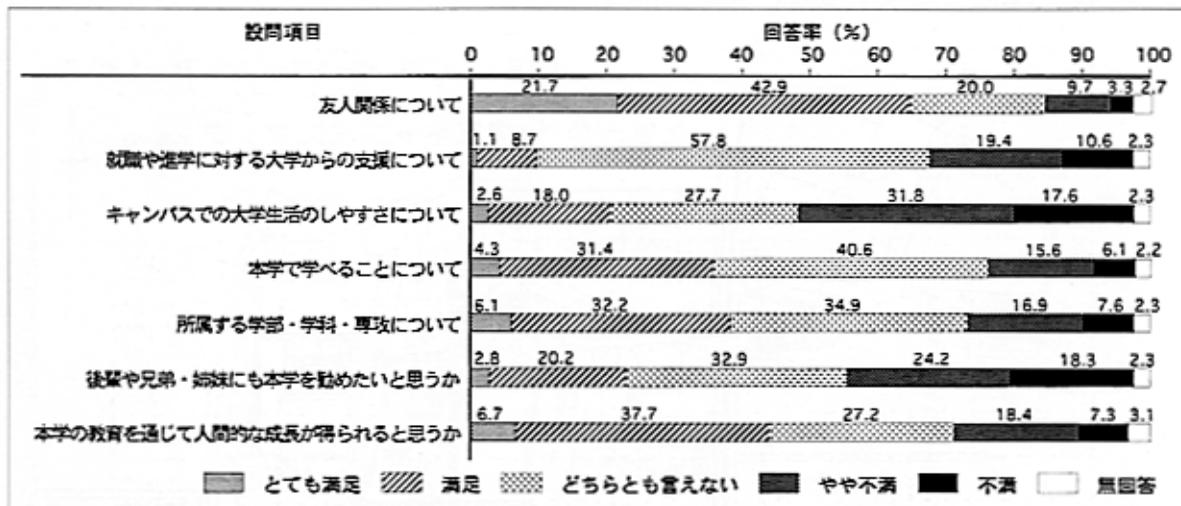
北里大生は今

「Sophia kai Ergon」をご存知ですか？ これを読むと、本学の就職状況・北里会の活動・学内情報などがよくわかります。No.144（平成12年7月5日）に「北里大学での学習等に関するアンケート調査結果」が掲載されていました。そこで、学生の意識を知る参考になればと思い、その一部を紹介致します。

「Sophia kai Ergon = 叡智と実践」は、北里大学のスクールモットーです。

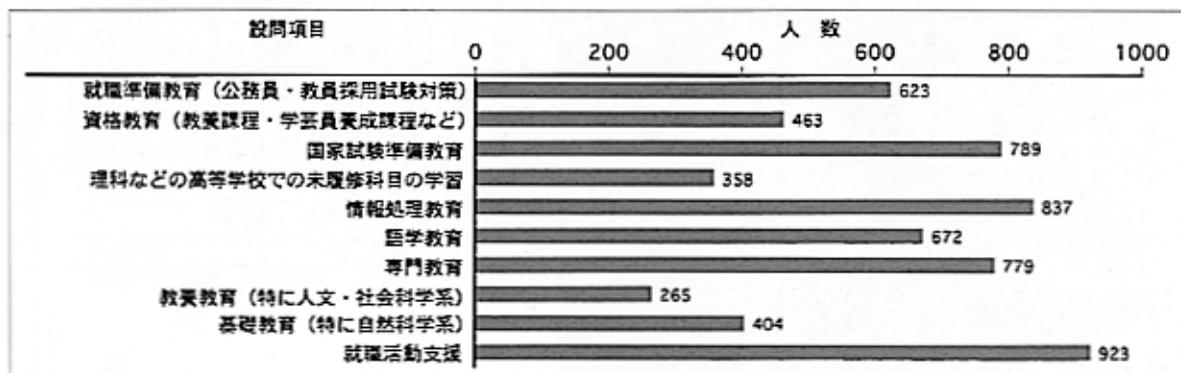
■大学生活などの満足度について：友人関係、就職・進学支援、キャンパス生活、学部・学科・専攻における満足度は？

「友人関係」の満足度が唯一50%を越えたのみで、次いで「学部・学科・専攻」「本学で学べること」「キャンパス生活のしやすさ」と続き、「就職や進学への支援」は10%を切り一番低かった。また、「本学を高配や兄弟に勧めたいか」という設問に対しては、「まったく思わない、あまり思わない」が40%余りと多かった。



■大学に望みたいこと：教育と就職活動支援に関する10項目の中で、特に充実を望むものは？

全回答者1,954人のうち1,857人(95%)の学生が回答し、一人平均3.3項目を挙げていた。充実の要望の大きいものは、「就職支援活動」「情報処理教育」「国家試験準備教育」「専門教育」「語学教育」の5項目で、これらで3分の1以上の学生から要望があった。



*グラフは、当方で作成し直しましたのでご了承ください。

会計報告

平成11年度決算

平成11年4月1日～12年3月31日

● 収入の部

科目	予算額	決算額	増・減(▲)
前期繰越金	45,597	45,597	0
年会費	80,000	73,000	7,000
通信費援助金	10,000	23,000	▲13,000
総会開催祝金	50,000	50,000	0
雑収入	50	87	▲37
合計	185,647	191,684	6,037

☆ 通信費援助金は、総会案内の発送件数に応じて同窓会本部から援助されるものです。
平成12年度より200円/人になりました。

☆ 雑収入の内訳は預金利息です。

平成12年度予算

平成12年4月1日～13年3月31日

● 収入の部

科目	予算額
前期繰越金	61,987
年会費	80,000
通信費援助金	20,000
総会開催祝金	50,000
雑収入	50
合計	212,037

● 支出の部

科目	予算額	決算額	増(▲)・減
名簿関係費	20,000	14,878	5,122
会報関係費	40,000	40,000	0
総会費	30,000	19,474	10,526
懇談会費	30,000	36,100	▲6,100
会議費	20,000	17,020	2,980
慶弔費	0	0	0
事務費	5,000	2,225	2,775
事業費	0	0	0
(小計)	(145,000)	(129,697)	
予備費	40,647	0	40,647
事業用積立金	0	0	0
次期繰越金	0	61,987	▲61,987
合計	185,647	191,684	▲6,037

● 支出の部

科目	予算額
名簿関係費	20,000
会報関係費	45,000
総会費	30,000
懇談会費	30,000
会議費	20,000
慶弔費	0
事務費	5,000
事業費	0
(小計)	(150,000)
予備費	62,037
事業用積立金	0
次期繰越金	0
合計	212,037

■ 本年度の総会が11月になったため、会報の発行と会計報告が遅れましたことをお詫び致します。毎年開催される福井県支部の行事と会報の発行は、皆様からの会費ならびに参加費によって運営されています。平成12年度もたくさんの方々から会費が寄せられました。心より感謝を申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。

年額 2,000円/人 (ご夫婦では 3,000円)

(郵便振替) 00710-8-24950 北里大学同窓会 福井県支部

福井県支部設立の頃を振り返って

福井県支部の前身である北陸支部は、福井、石川、富山の3県に在住する同窓生の情報交換及び親睦を図ることを目的として、昭和48年卒業の諸氏が中心となって昭和51年9月に設立されました。そして、活動を広く行うために各県から数名の理事を選出し、また総会も各県持ち回りで開催してきました。母校から川西教授、西村教授、大塚教授あるいは本部同窓会の役員の方々に出席していただき、大学の状況や将来構想をお聞きし、同窓会の事業方針、特に支部の育成について討議を重ねました。

しかし、年々会員が増加し、また地理的にも南北に細長く延びていることから、十分な活動ができなくなりました。そこで、昭和57年からは県単位で活動することになり、福井県では昭和58年に2回、昭和60年に1回懇親会を開催しました。こうしたことが契機となり、よりきめ細かく活発な活動をするために各県が独立することになり、昭和61年5月18日に開催された本部同窓会の定期総会で、福井県、石川県、富山県の各支部の設立が承認されました。

* 福井県支部設立総会は、昭和61年6月22日に福井厚生年金会館で開催されました。



相模原キャンパス

編集後記

新たな世紀を、同窓生の皆様は様々な夢を描いて迎えられたことと存じます。小さかった頃に想像していた21世紀...現実になってみると、なぜか不思議な感じがします。

昨年暮れは、一昨年と比べてそれほど賑やかではありませんでした。ミレニアムやY2Kで騒いだのが懐かしく思い出されます。しかし、企業や社会のリスクマネジメントはこれからが重要です。厳しい時代の中で、取り残されないように頑張りたいものです。

21世紀を迎えたのを機に、この会報をリニューアルしました。限られた予算の中で、少しでも良いものを目指して毎号パソコンで作成しています。今回も快く寄稿してくださいました皆様に感謝致します。

昨秋、相模原キャンパスで開催された北里祭に行きました。さわやかな秋晴れの下で、学生たちの活気が感じられました。その時の感想を、「再び相模原へ」と題して書かせていただきました。

会報は同窓会活動の大きな柱です。毎年必ずお届けします。これからも皆様のご支援をよろしくお願い致します。

伊藤 記

編集

伊藤善祐 江島昌希

竹下人美

発行日

平成13(2001)年3月15日

発行責任者

清水賢涼